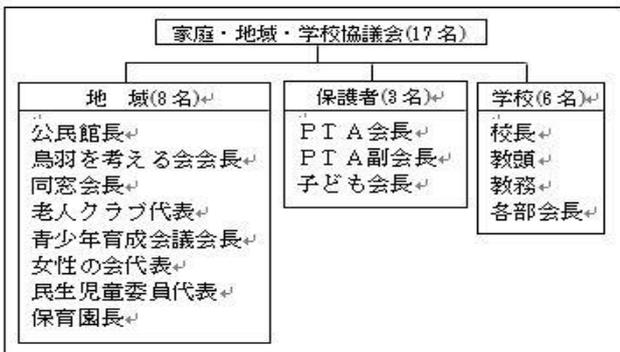


### 1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

#### (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



#### (2) 協議会の内容

開催予定回数	年2回
開催日程	6月中旬 2月中旬
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動計画及び方針，教育計画の説明と意見交換</li> <li>・活動の評価と次年度への展望について</li> </ul>

※地域コーディネーター（2名）  
 鳥羽公民館長  
 里山里海湖研究所員

#### (3) 協議会における成果と課題

- ・本校においてはこれまで十年以上にわたり、ノーチャイム、縦割り活動の充実に取り組んできている。その二本の柱をもとに、スクールプランに基づく教育活動、学校評価結果についての意見交換に主として取り組んだ。会議では「鳥羽っ子」の育成について忌憚のない意見が多く出され、学校と地域が一体となって教育を進めようとする積極的な姿勢が見られた。

### 2 地域と進める体験活動

#### (1) 活動のねらい

地区の老人クラブおよび公民館の支援のもと、米作り等を通して、地域との連携、交流を推進するとともに、ふるさとや自分の学校を誇りに思う心情を育てる。

#### (2) 活動の実際

##### 「コウノトリ米作り」(5, 6学年)

地区の老人クラブの協力を得ながら、学校田において、低農薬によるコウノトリ米作りを行った。さらに学校田で収穫したコウノトリ米を町内のイベントで販売し、収益金を福祉施設に寄付したり、修学旅行でのPR活動で無料配布したりした。その際には自分たちで作成したチラシを配布した。



#### (3) 地域コーディネーターの活動概要

- ・学校と関係諸団体との間で、日程調整をしていただいた。

#### (4) 特に工夫した事項

- ・コウノトリ米作りはおもに5年生が中心となっているが、収穫した米を6年生が修学旅行で若狭町のPR活動に使うなど、学年間の連携に配慮した。

#### (5) 成果と課題

これまでの3年間の取組を通して、児童の地域に対する愛着や参画意識が芽生えてきているように感じる。特に、コウノトリ米作りは町内の各小学校で作っているお米の中で、若狭町観光未来創造課、地区公民館、老人クラブと連携して、町のブランド米として育て、PRしていこうとする取組であり、子ども達にとってふるさとの誇りとなってきているように感じる。そこで学んだことや、自分たちの学習の中で取り組んだことを今後、自分たちの住む地域にどのように生かしていけるか、自分たちにはどんなことができるのかを考えていくことが重要であると考えます。

(様式3)